

重要古語や複数の意味を持つ文法事項に着目し、 本文における意味や用法を正しく判断する力が求められた

共通テスト 第3問 問3

- 問3 傍線部Bよくぞもまゐりけるなど、思し残すことなきまに、よろづにつけて恋しくのみ思ひ出でこゑさせたまふの語句や表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 26。
- ① 「よくぞ……」は、妻の描いた絵を枇杷殿へ献上していただくことを振り返って、そうしておいてよかったと、長家がしみじみと感じていることを表している。
- ② 「思し残すことなき」は、妻とともに過ごした日々は後悔はないという長家の気持ちを表している。
- ③ 「まににはこれでもやけ」という意味で、長家が妻の死を受け入れたつもりでも、なお悲しみを払拭することができるに苦悩していることを表している。
- ④ 「よろづにつけて」は、妻の描いた絵物語のすべてが焼失してしまったことに対する長家の悲しみを強調している。
- ⑤ 「思ひ出でこゑさせたまふの」は、役者の意味で、ともかく妻のことを懐かしんでほしいと、長家が枇杷殿に強く訴えていることを表している。

第3回ベネッセ・駿台模試 第3問 問2

- 問2 波線部「歌まぞひなびりける。さすがにあはれとぞ思ひけむ、いきて寝にけり。」に含まれる語句についての説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。
- ① 「まへ」は添加の副助詞で、「までも」と訳す。
- ② 「ひなび（ひなを）」は「田舎にみている」の意味を表すバ行上二段活用動詞である。
- ③ 「さすがに」は副詞で、「そうはいってもやはり」と訳す。
- ④ 「けむ」は過去の原因推量の助動詞で、反語の係助詞「」の結びとなっている。
- ⑤ 「寝にけり」の「に」は、完了の助動詞「ぬ」の連用形である。

両者の問題とも、波線部（傍線部）に含まれる語句（や表現）について正しい理解を問う出題であった。重要古語や複数の意味を持つ文法事項について、単に知識を習得しているだけでなく、本文における意味や文脈に合致する用法を正しく判断する力が求められた。